

積丹町

平澤 史子

1. 積丹町概要

1.1 地名の由来

アイヌ語で「シャク(夏)」と「コタン(村、或いは郷土)」の二語を合わせたもので、意味は「シャクコタン(夏・場所)」となる。また、アイヌ語のサクコタンから、サク・コタン(夏の・集落)に由来するという説もある。

図1 町章

1.2 町章

積丹町の町章は1966年8月11日に制定された。輪郭を三羽のカモメでつなぎ、美国、入舸、余別の三町村が合併して融和、提携により発展していく姿を象徴、中央には積丹岳、波、船を組み合わせ「丹」を表現、平和で豊かな郷土を表わしたものである。



出典:積丹町 HP

1.3 町花・町木

積丹町の町花はエゾカンゾウ(図2)である。エゾカンゾウは初夏に野原で黄色い花を咲かせるユリ科の多年草で、特に神威岬で多く見られる。町木はエゾヤマザクラ(図3)である。エゾヤマザクラはバラ科サクラ属の植物で、ベニヤマザクラ(紅山桜)・オオヤマザクラ(大山桜)とも呼ばれている。

図2 エゾカンゾウ



出典: 釧路食遊記

図3 エゾヤマザクラ



出典: 釧路食遊記

1.4 気候

積丹町は位置海洋性気候のため夏、冬ともにしのぎやすく、雨や雪の量は比較的多いほ

うである。

最暖月の8月の平均気温は21.6、最寒月の1月では-2.7となっており、暑すぎず寒すぎない過ごしやすい環境だと言える。

また、降水量は最多月の10月は141mm、最少月の6月は53.6mmである。

1.5 位置

後志総合振興局北部、日本海沿岸の積丹半島先端部に位置する町である。積丹半島を形成する山列に源を発する古平川が町の中央を北流し、その流域が町域の大部分を占めている。古平川河口の左岸に中心市街の浜町があり、そこから北に続く港町・本町にかけての海岸線は小湾を形成しており天然の良港。その他の海岸線は断崖が続き、奇岩も多く景勝地となっている。

図4 積丹町の位置

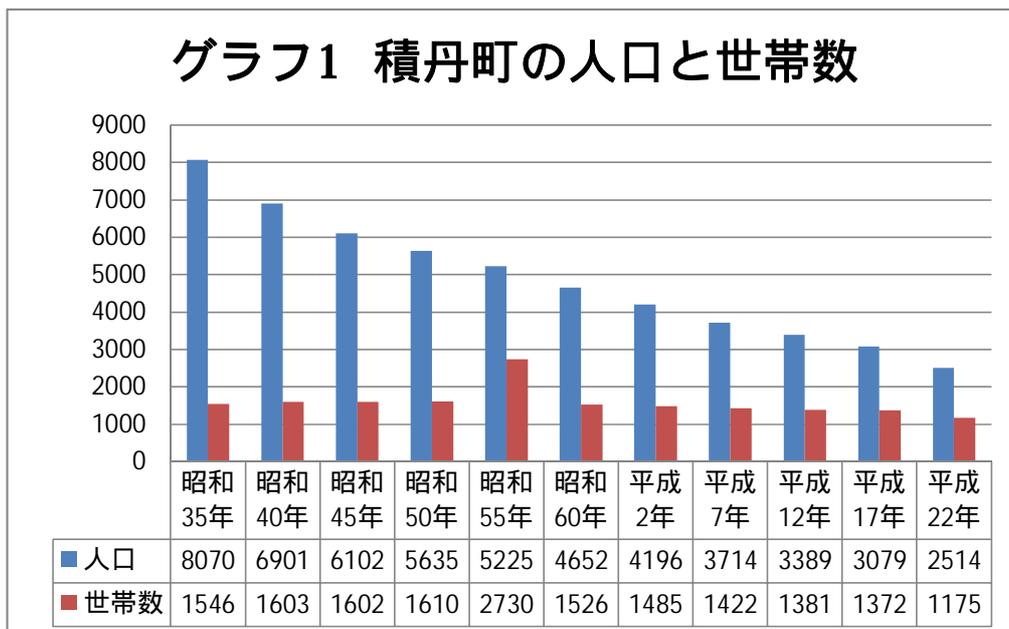


出典：積丹町 HP

2. 積丹町の人口

人口は年々減少しており、現在は1960年の4分の1ほどになっている。このままのペースで減少していくと、まもなく2000人を切ることが予想される。しかし一方で世帯数はさほど変わっていないことがうかがえる。また、64歳以上の人口が1069人（2005年）であることから、積丹町では高齢化が進んでいると予想される。

グラフ1 積丹町の人口と世帯数



出典：北海道庁 HP より筆者作成

3. 積丹町の歴史

3.1 積丹と漁

積丹の歴史はニシンの歴史と言われている。今でも、各港にはニシンの漁場がたくさん残されている。特に余市の福原漁場と、泊村の川村家鯨番屋は規模も大きく、ニシンの大漁に沸いた当時の賑わいや、贅を尽くした建物が良く残されている。

なかでも、数多くの伝説や逸話が伝えられており、北海道を代表する民謡「ソーラン節」は、ニシン漁で賑わった積丹町が発祥の地と言われている。

3.2 伝説

3.2.1 宝島伝説

黄金岬の先にある宝島の伝説。アイヌの首長は、娘チャシナと召し使いの若者との恋に猛反対して若者を軟禁。その頃美国の沖に怪物が現れてニシンがまったく取れなくなり、首長は怪物を退治したものは娘の婿にするとおふれを出したが、志願者は皆、命を落としてしまう。困った首長は娘の恋人を送り出し、若者は夢の中で女神から受け取った兜と剣で見事に怪物を退治。ところがそれを知らない娘は、恋人も怪物にはかなわないと絶望して海に身を投げ、村に帰った若者も後を追う。翌朝、兜と剣の形をした岩が現れ、その後はニシンの大群が毎年、押し寄せた。以来、兜のような岩を宝島、剣のような岩は立岩と呼ばれている。

3.2.2 女郎子岩伝説

積丹岬地区にある女郎子岩の伝説。沖に向かってずっと立つ女性の姿のような女郎子岩には、悲しい伝説が残っている。奥州から逃れて来た源義経は、現在の入舸町まで辿り着き、首長の娘シララと恋仲になった。しかし、追ってから逃れるために義経はさらに奥地へと旅立たねばならず、シララとの惜別の情に耐えかねて、月夜の晩に家来とともにひそかに船出。それを知ったシララは絶壁の上から泣き叫んだが、船が遠く離れていくのを見て海に身を投げてしまった。そのシララの姿が、女郎子岩になったと言われている。

3.2.3 神威岩伝説

神威岬の先端にある神威岩の伝説。奥州からひそかに逃れた源義経は、日高の首長のもとに身を寄せ、首長の娘チャレンカは義経を強く慕うように。しかし、義経は北へ向かって旅立ち、後を追ってチャレンカも神威岬までたどり着く。ところが、義経一行は既に出帆してしまい、チャレンカが大声で叫んでも折からの強風にかき消されて届かない。悲しみにくれたチャレンカは、「和人の船、婦女を乗せてここを過ぐれすなわち覆沈せん」という恨みの言葉を残して海に身を投げてしまった。その姿がやがて岩と化したと言われているのが神威岩。以来、女性を乗せた船がこの沖を過ぎようとする必ず転覆したた

め、神威岩はかつて女人禁制の地となっている。

3.3 ソーラン節のふるさと

明治から開拓が始まった積丹町の開基は 1776 年。北海道の中でも古い歴史を誇り、その歴史を誇る上で忘れてはいけなのが、紺碧の海に大挙して押しよせた鯨の大群である。”ヤン衆”たちは魚影を追い続け、数々のドラマを生んだ彼等の代表作として「ソーラン節」が誕生した。ソーラン節とは、あふれんばかりの鯨でいっぱいとなった網を引き揚げる時の「力入れ」の唄であり、彼等によって北海道はもとより、全国へと広がっていった。図 1・図 2 は参考程度に。

一般的に知られているソーラン節（沖揚げ音頭）とは「正調鯨場音頭」を構成している四編の中の一編だということは以外と知られていないが、他の三編と合わせて鯨漁の一つの物語として、全盛時をうかがい知ることができる。

図 5 過去の沖上げの様子



出典：積丹町 HP

図 6 ソーラン節の歌詞

沖揚げ音頭（ソーラン節）
エーヤーレンソーランソーラン
ソーランソーラン
大島小島は兄弟島よ
なぜにゴメ島はなれ島チヨイ
離れ島でも時節が来れば
春はかもめが群れ遊ぶチヨイ
大漁手拭キリリとして
一夜千両の網起こしチヨイ
かもめどこ行く子供をつれて
鯨大漁の美国までチヨイ

出典：積丹町 HP

4. 産業

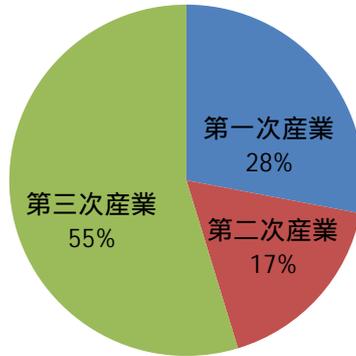
4.1 積丹町の産業

積丹町では、第一次産業就業者数が 417 人、第二次産業就業者数が 257 人、第三次産業就業者数は 814 人となっている。

現在第三次産業が 55%と一番多く、観光に一番力を入れていることが予想される。また、人口の減少や高齢化と共に漁業・農業世帯や従事者が年々減少していることが問題となっ

ている。

グラフ2 積丹町の産業別就業者数



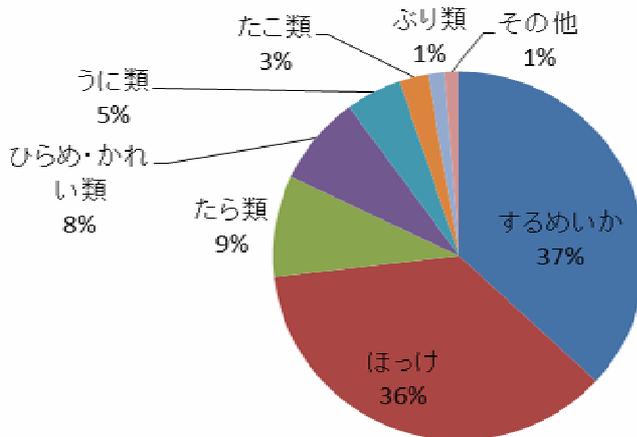
出典：北海道庁 HP より筆者作成

4.2 積丹町の漁業

漁業に関しては現在でも産業の中心で、6月のウニ漁、秋のサケ漁、冬季のタラ漁など四季を通して水揚げがある。個人漁業経営は223世帯であり、世帯漁業従事者世帯は38世帯である。魚種別漁獲量が一番多いのはするめいかで1218t、次にホッケの1198tとなっている。

漁業を基幹産業とするこの町の夏の風物詩はウニ漁であるが、しかし、このウニ漁に深刻な問題が起きている。この10年間で漁獲高が半減しており、ウニが主食とする海藻の減少で、積丹町の沿岸一帯には、海藻のない「磯焼け」という現象が広がっているという。

グラフ3 魚種別漁獲量



出典：市町村のすがたより筆者作成

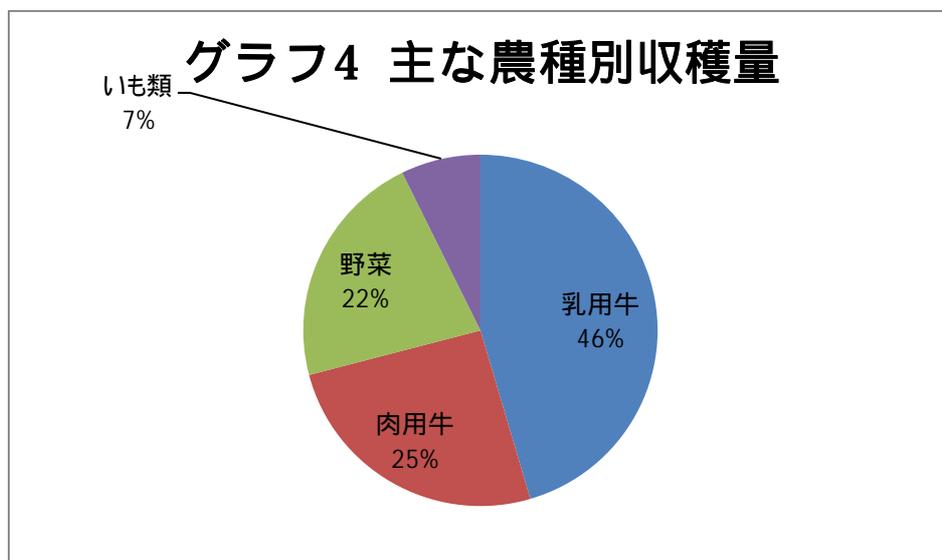
4.3 積丹町の農業・林業

農業に関して農家数は 81 戸であり、農家人口数 271 人とである。そのうち自給的農家が 30 戸、販売農家が 51 戸と販売農家率が多い。農業産出額は 56 (千万円) であり、内訳としては乳用牛が 46%、肉用牛が 25% である。畜産産出が農業産出額のほとんどを占めており、畜産産出額は 39 (千万) と全国的にも多い方である。

収穫量については牧草の 21100t、青狩りの 3140t が大半を占めている。

一方、林業では林家数は 79 戸で、農家数とさほど変わらない。林業経営体数は 22 経営体で、うち家族経営数は 19 経営体となっている。

林野面積の合計は 18,740ha で、総土地面積の 78.8% である。



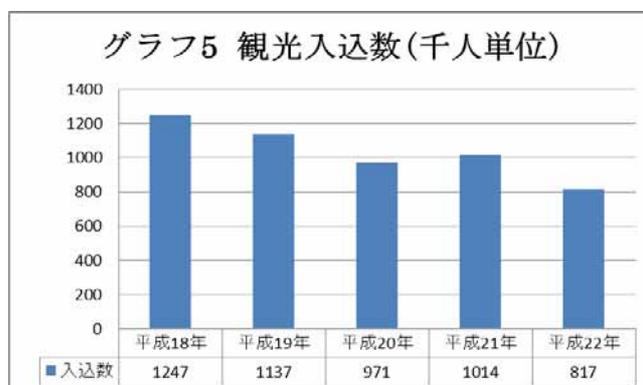
出典：市町村のすがたより筆者作成

5. 観光

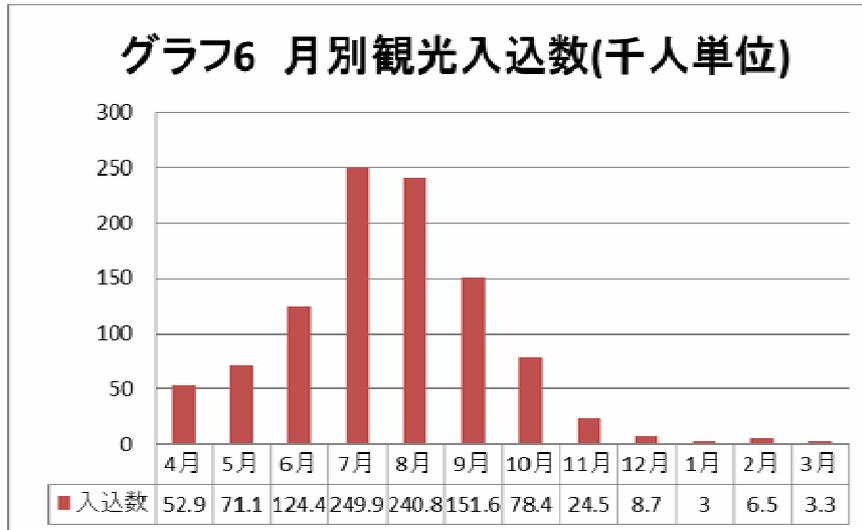
5.1 積丹町の観光入込客数

積丹町の観光入込客数は、2009 年に若干増えたものの年々減少し続けている。

月別では海や岬などの屋外の観光スポットが大半のため、夏場と 10 月以降の冬場との入込客数の差が大きい。また、多種の海の幸を味わえる祭りが夏場に催され、そこに観光客が集中しているのも原因の 1 つだと予想される。



出典：後志支庁 HP より筆者作成



出典：後志支庁 HP より筆者作成

5.2 観光スポット

5.2.1 神威岬

この付近は古くから海上交通の難所として知られていた。日高地方の首長の娘チャレンカが源義経を慕ってこの岬まで義経一行の後を追ってきたが、既に海の彼方へ去ったことを知って身を投げ、神威岩になったという言い伝えがあり、チャレンカの嫉妬心が女を乗せた船を転覆させたことから、岬一帯が女人禁制の地になったとされる。もっとも現実には、和人が岬から奥地へ定住することで、ニシン漁を始めとした権益を損なうことを恐れた松前藩による規制と考えられている。1855年（安政2年）に蝦夷地一帯が幕府直轄下におかれると女人禁制は解かれ、奥地への定住が進んでいった。また、日露戦争時にはロシア艦隊の来襲に備えて監視所が設けられていた。

図7 神威岬



出典：積丹観光 web site

図8 積丹岬

5.2.2 積丹岬

積丹岬（しゃこたんみさき）は、北海道西部、積丹半島の北端にあたる岬。一帯は高さ100mを超える断崖絶壁となっており、日本海による荒波が激しい。その荒波によって、



出典：積丹観光 web site

鮮新世の集塊岩が長年に亘って削られたものである。島武意、笠泊などの海岸を始め、沿岸一帯はニセコ積丹小樽海岸国定公園に指定されており、奇岩、断崖が卓越する変化に富んだ海岸線が見られる。中でも海上に屹立する女郎子岩が知られ、ほかに弁天岩などがある。野生生物も豊富で、特にトド、アザラシなどの大型海獣が多く観察される。なお、積丹岬から西方に10kmほど進むと義経伝説が残る神威岬（かむいみさき）がある。

5.3 イベント

5.3.1 6月 積丹ソーラン味覚祭り

とれたてのとろけるようなウニはもちろん、イカやツブなど、積丹ならではの味覚を存分に楽しめる。エビやホタテ、すり身などを野菜と一緒にみそ味で煮込んだジャンボ浜鍋も大人気で、浜値朝市もある。

5.3.2 7月 火祭り

大漁旗が海を華やかに彩る海上渡御、神輿や山車のパレード、出店などで町内はにぎわい、夜には勇壮な神事「天狗の火くぐり」でクライマックスを迎える。闇に映える炎の中で繰り広げられる幻想的なまつりをひと目見ようと、大勢の人たちが訪れる。

5.3.3 9月 積丹生き活き祭り

積丹は、海の幸だけでなく山の幸も豊富。収穫の秋のみの新鮮な野菜や牛肉など、地元の味を産地価格で販売している。もちろん、自慢の海産物も販売するほか、旬のサケ鍋なども用意。季節の恵みをたっぷり堪能できる。

5.3.4 11~12月 どっこい積丹冬の陣

積丹には冬だからこそ味わえる食材も多く、それを楽しんでもらおうと今年宿、飲食店から温泉、商店と街あげてのあったかいもてなしで大好評。

< 参照 HP >

・積丹町 HP : <http://town-shakotan.com/>

図9 積丹ソーラン味覚祭り



出典：積丹観光 website

図10 火祭り



出典：積丹観光 web site

図11 積丹冬の陣



出典：積丹観光 web site

- ・ 積丹観光 web site :

<http://www.kanko-shakotan.jp/index.htm>

- ・ wikipedia :

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%BE%8E%E5%9B%BD%E7%94%BA>

- ・ 北海道庁公式ホームページ : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>

- ・ 市町村のすがた :

<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/map2/01-01/405/fisheries.html>